

【令和3年度 第3回：ふれあい講座（ポリビア編）実施報告書】

11月26日（金）に「第3回ふれあい講座（ポリビア編）」がJICA 沖縄センターの体育館で開催されました。約1年ぶりの対面式での実施となりました。コロナウイルス蔓延による緊急事態宣言が解除された後の開催ということで、来場者数の制限を設ける中、38名の参加がありました。

今回のゲストスピーカーは、南米ポリビアより県費留学生として県内大学に通っている眞榮城海人（マエシロカイト）さんと中村麻衣（ナカムラマイ）さんでした。そしてメイン MC は Uchina Network Concierge（ウチナーネットワークコンシェルジュ、以下 UNC）より比嘉アンドレスさん（県系2世、アルゼンチン出身）が務めました。ゲストの2人と司会者は、それぞれ出身国の民族衣装を着てふれあい講座に参加しました。

海人さんと麻衣さんの出身国であるポリビアは、海に面しておらず、「世界に誇る美しい海に囲まれた沖縄で学べるのが本当に嬉しい」とコメントしていました。お2人は、ポリビアのサンタクルス県のコロニアオキナワで育ったことやコロニアオキナワの様子もたくさん紹介してくれました。事前に参加者からお二人への質問のアンケートをとっていましたが、会場からは、「コロニアオキナワには小学校や中学校、高校はありますか？」や「仏壇はありますか？」、「お墓のスタイルは？」、「日系社会の若い世代は茶髪にしますか？」などあり、これらの質問にも答えてくれました。MC のアンドレスさんは、ポリビアの日系社会とアルゼンチンの日系社会が「全然違います！」と感想を述べていました。日系社会でも、国によって沖縄文化が色濃く残っていたり、現地に溶け込んでいたり事情は様々なようです。

各国の紹介後、浦添市国際交流協会の佐久川さんが MC 担当し、ポリビアと日系社会に関するクイズを出題しました。コロニアオキナワでは、祖父母の事を沖縄と同じく「おじー、おばー」と呼ぶことや、「Undokai = 運動会」や「Obon = お盆」、「Keiro-kai = 敬老会」等の日本語が日系コミュニティの行事に使われていることを教えてくれました。その他にも、ポリビアの楽器や南米3大祭り等についての問題もあり、会場にお越しの方が、指で123を示しながら答える形で参加してくれました。沖縄の年中行事や祝いの席での琉球舞踊、空手演舞、沖縄料理の古き良き沖縄の伝統文化が、海を越えた遠い国にある日系社会で継承されていることに誰もが驚き、感動していました。

少し短めの交流タイムでは、ポリビアの民族衣装を楽しんだり、より深くアルゼンチンポリビアの国を学んだりしている方がいました。最後は、海人さんと麻衣さんが準備したスペイン語ビンゴゲームをすると大変盛り上がりました。2人がスペイン語での挨拶等を寸劇で披露しながら、ゲームを進行してくれました。1番最初に「BINGO」になった方には海外の景品をプレゼントしました。スペイン語を初めて聞いた小学生の男の子は、「何言ってるの？意味わからん」と言いながらもスペイン語を学び、帰り際に「グラジオス」と笑顔でお礼を言って、学んだ事を活かしてくれました。

来年度は世界ウチナーンチュ大会が開催されます。皆さんも地球の反対側の南米に暮らす沖縄にルーツを持つ人たちについて学びを深めてみませんか？JICA 沖縄には図書資料室もあり、今年度からは、UNC という県外・海外のウチナーンチュと繋がれる場所ができました。是非ご利用ください。次回で今年度のふれあい講座が最後になります。2月18日（金）の開催予定ですが、コロナウイルスの蔓延状況によっては予定の変更もあります。詳細のご注目ください。

〈参加者の感想〉

- ・言葉が似ていたり遠く離れたポリビアに沖縄移住者の村があることにびっくりした。
- ・異国の中にオキナワの文化が根強く残っているのがすごいと思いました。
- ・衣装がかわいくて目を惹かれました。沖縄の料理もあると知ってびっくりしました。
- ・ポリビアの言葉(スペイン語)が印象的で今後スペイン語を習得したい。
- ・クイズ、子供も楽しめるようご配慮くださりありがとうございました
- ・ポリビアでも仏壇の習慣があること

会場の様子



ゲストスピーカー
左より麻衣さん、海人さん、アンドレスさん

アルゼンチンとボリビアの日系社会の紹介



ボリビアクイズの様子

クイズの答えを123と指で示します



交流タイムにゆんたく



ボリビアの民族衣装体験



ビンゴの景品を贈呈